

## 佛乗寺檀信徒の皆さまへ

日蓮正宗 佛乗寺 住 職 笠原建道  
講 頭 廣田正至

### 《支部総登山》

六月五日に支部総登山を行いました。参加された皆さま、ご苦労様でした。何日も前から準備をして、当日を迎えたとき、「今日は天気が悪い」と気分が滅入った方もいらっしゃるかも知れません。総本山の広い境内地を、布教講演や御開扉にと、移動するのは、足下が気になるものです。

そのような中で、遠路のところ、朝早くから大御本尊様のもとに足を運ぶ修行に励んだのですから、その貴さは文字や言葉で表すことは不可能です。ただ、日蓮大聖人様のお言葉を拝するのみです。

『本尊供養抄』の中では、

**「須弥山に近づく鳥は金色となるなり」(御書・一〇五四頁)**

と仰せです。

御文の、須弥山(しゅみせん)は、梵語の Sumeru を漢字の音をあてたものです。日本では、妙光山あるいは妙高山と訳されております。仏教では、この須弥山が中心となって、私たちの住む世界がある、とされております。またこの須弥山は、金・銀・瑠璃(るり)・玻璃(はり)の四種類の宝の集まりで、帝釈天や四天王が住しているとされております。その須弥山に飛んでくる鳥は一羽残らず金色になる、と大聖人様は仰せになります。

登山は我が身を飾る功德

『妙法尼御前御返事』を拝しますと、

**「須弥山に近づく衆色は皆金色なり。法華経の名号を持つ人は、一生乃至過去遠々劫の黒業の漆変じて白業の大善となる。いわうや無始の善根皆変じて金色となり候なり」(御書・一四八三頁)**

と教えて下さっております。

ここでは、須弥山に近づくのは鳥ではなく「衆色」と示されますが、これは私たち衆生の色のことで、一人残らず金色に染まる、という意です。次に「法華経の名号を持つ人」とありますことから、須弥山は、本門戒壇の大御本尊様が御安置されている総本山富士大石寺のことを意味していると拝するのが私たち法華講衆の信仰です。ゆえに、本門戒壇の大御本尊様を信じ励むその人は、生まれてから死ぬまでの現世の黒業(罪障)ばかりか、過去世からの黒業(罪

障)も白業(功德)に転換することができる、と記されております。さらにその上、過去世に積み重ねた善根は全て金色になる、と述べられて、御本尊様の功德は、過去・現在・未来と三世を利益する偉大なものであることを御教示です。

支部登山ばかりではなく、夏期講習会や個人登山で御開扉を受ける功德は、いまさら申し上げるようなことではないかもしれませんが。しかし、今回も初めての方や数十年振りという方がいらっしゃいました。そのような方のためにも、私たちは繰り返し繰り返し登山の功德を語ることが大切です。さらに、語るばかりではなく実践・行動に移すことが大切です。

最後に一言付け加えるならば、「無始の善根皆変じて金色となり候なり」のお言葉は、大御本尊様のもとに足を運ぶ事によって、これまでの功德を不動のものにする、という意味で拝することができます。不動のものにする、を別の言葉で言えば、功德を生命に定着させることです。未来永遠に失われることのない功德を今生で確定することです。

### 創価学会は反面教師として

勤行をして、折伏をして、お寺にお参りをして、御本尊様に御供養を申し上げて、多くの功德善根を積んでこられた方であっても、「第六天の魔王」に誑かされ、一瞬にして功德善根が消え失せることがあります。創価学会の人々の姿がそれを教えてくれております。なぜ彼らがそのようになったのでしょうか。それは、心の底から大御本尊様を信じていなかったからです。「須弥山に近づく鳥は金色となるなり」を本当の意味で理解できていなかったからです。

創価学会の姿を反面教師として、大御本尊様から離れない信仰を貫くためにも、機会を逃さずに総本山に足を運ぶ事が肝要であることを銘記いたしましょう。

### すべてが意味のあること

先月の向陽で、「朝参りは三世の功德」と題して述べました。勤行の心構えについて、檀信徒の皆さまから、「身が引き締まる思い」というお言葉が寄せられました。また、暗い中で、御宝前の明かりだけを頼りにしての勤行にも、深い意義があることに改めて気づいたという御意見もありました。皆さん素直な方ばかりで住職として嬉しく感じた次第です。

過去に、「新来者を連れて来たが、その人が暗くて気持ちが悪いと云って帰ってしまった」と言いつのる者がおりました。その場で、「暗くて気持ちが悪い、というのは、連れてきた紹介者がそのように思っているからで、紹介者自身の心の闇を表しているのです。あなた自身の信仰姿勢を改めましょう」と指導し

たことを思い出しました。

電気の明かりが普及するまでは、ローソクの明かりが頼りでした。旧い話ではありません。文明が進んで、心の中にある闇に気づかなくなっている証拠かも知れません。前述のように言いつのる者の姿から思えることです。

私たちの全てにおいて「無駄」なことは一つもありません。まして御本尊様に向かって勤行唱題をする修行に、マイナスなことなどあろう筈がないではありませんか。必ず何らかの意味があり、御本尊様がそのことを教えて下さっている、と捉え前に進むのが、南条時光や熱原の法華講衆の末裔を自認する私たちの信仰です。総本山への登山は尚更です。大御本尊様に御目通りを願うのですから、大きな大きな意味があります。例え交通事故に巻き込まれるようなことがあっても、御本尊様の功德を信ずる限り、必ずよき方向に進むことが出来るのです。

多くの困難を乗り越えて登山参詣される檀信徒の皆さまに対して、「とても素晴らしいご信心です。罪障消滅が叶いましたね」と大聖人様からお誉めの言葉があります。

次の支部総登山は九月四日の日曜日です。今から準備をして御開扉を願い、今生での功德を生命の中にしっかりと定着させようではありませんか

## 「平成二八年六月五日 第一回佛乗寺支部総登山感想」

朝から雨で傘を差してバスを待ってました。帰りはお日様が出て明るくほどほどに暖かく、本山に行けて最高に幸せでした。

布教講演のお話で、我々は自由にいつでもお山に行ける幸せを感じ、信仰の自由の尊さを改めて感じました。

外国人の私にとってこのような有意義な登山に参加でき、また沢山の佛乗寺の信徒と知り合え、とてもよかったと思います。今度もっと沢山の外国人を折伏し、佛乗寺支部と一緒に登山に参加したいと思います。宜しくお願い致します。

折伏躍進の年の支部総登山に参加ができ、折伏の意欲が強くなりました。特に布教講演を拝聴して、なお強く感じ、御開扉を受けられました。

バス行き帰りともに順調。皆で唱える題目は本当に気持ちよいです。父も参詣できたこと本当にうれしかったです。“お登山できること”感謝の気持ちでい

っばいです。“この感動をしっかりと”折伏という形で結果に出せるよう頑張ります！！

大石寺の御本尊様は、すごく大きかったです。お題目は、大きな声であげました。周りにさつきの花が咲き、すごくきれいでした。とても楽しい登山でした。

本日は、雨で残念でしたが御開扉の後、御住職様、皆様と唱題する事が出来、大変感謝致します。帰る時には天気になり良かったです。

御法主上人猊下様に御開扉の時に、遠くからではありますが御目通りを頂くことができ、素晴らしい一日でした。有難うございました。

布教講演で海外信徒のお話、御開日の後の唱題と充実した一日を送ることが出来ました。

私には、消滅しなければならぬ罪障がいっぱいあります。御住職様が、自分も周りの人も幸せになるよう御祈念することが大切と仰います。私はずっと、自分自身がしっかりしないと周りの人まで幸せにすることはできないと決めつけていましたが、御住職様のお言葉を素直に信じて、お題目を唱え、折伏できるようにになりたいと思いました。

御開扉を頂いた後に宿坊で再度題目を唱題をし、一段と登山の意義を感じました。着山し、登山事務所の処で、何処かの坊の御住職様から「どちらに参りますか？」とお声をかけられ、「典礼院です」とお答えした処、「どうぞお乗り下さい。お送りします」と言われ、典礼院まで送って下さるという有り難いことがありました。雨の中たいへん有難うございました。これも御登山のお陰と深く心に感じました。

### 「第一回夏期講習に参加して」

閉会式のときに八木総監様よりいただいた「日々感謝と笑顔を忘れずにご精進ください」というお言葉に、無事二日間の講習を終えられたことへの安堵感と久しぶりに参加した夏期講習で、改めて「信、行、学」の大切さを感じ、毎日の自分の生活を信心中心にしてみなければいけないなと思いました。まずはこの二日間で自分が感じたこと、どんな小さなことでも私の家族や周りの方に伝えていきたいと思いました。

## 「母の御授戒」

先月五月一日、入信以来の念願だった母の御授戒が叶いました。私は十七歳の夏、仏乗寺で御授戒を受けました。家は真言宗、盆経は曹洞宗、葬儀は念仏宗、父方には真言宗の僧侶が三人おりました。

入信後家族を折伏して御授戒を受けることができましたが、母は猛反対で、包丁を手に家から追い出すこともありました。その時の母は、病床の父に馬乗りになって『日蓮と私どっちとるんや』と責め立て、ガンの末期だった父の信心を止めさせてしまうほどでした。

その間、仕事や対人関係等々言葉にはできないようなことも有りましたが、日蓮正宗の信仰、大御本尊様へ信仰はゆるぐことはありませんでした。その功德で、本年一月一日に、仕事上のパートナーとして会社を立ち上げた　さんと入籍をすることができました。それを機に今回母が上京しました。母が帰る前の夜、細くなった手で、私の手を摩りながら

「　、頑張るんだよお　さんを大事にするんだよお」

と言われ...つい泣いてしまった私は『やっぱり言わなきゃダメかぁ』と思い、

「何が一番悔やまれるって一度もお母さんとお山に行けなかったことかなぁ」

と話し、そして

「そおいえば最近ね、住職さんがすっごく僕に優しく、丁寧に接してくれるんだけどなんでかなぁ～」

と話すと母は

「それ本当か？お前も色々注意された事を改めてこれだからじゃないのか？それならもう私も最後だと思うから帰る前にお寺に行って御授戒を受けるよ」

というのです。

これ迄、私の中では母の御授戒は諦めきれないけれど、この人だけは例外...といつしか思っていた所がありました。そんな、まさか、と思う御授戒が叶いました。『随分長かったなぁ』と思いましたが、もし母があっさり入信していたら、私の信心修行は続いていなかった様な気がします。母が長年御授戒を受けなかったのは、大聖人様が『甘いな！もっと修行せい！』と誠めつつ見守って下さっていた、そんな気がします。

結局『親の業ではなく全ての原因は自分自身にあったのだ』と痛感しています。

平成十五年に、大願寺様で体験談を話した際『どんな功德があるのか楽しみ』などと話していましたが、私にとっては今回　さんと一緒になれた事、そして母の受戒が何よりの功德であると感じています。

入信二九年九ヶ月、漸く叶った母の御授戒は、道のりが長かった分、大変面白い深い人生最高の日となりました（涙）皆さまの励ましに感謝しております。

有り難うございました。

### 住職から一言

文中に住職に関することがありましたので、一言。思うに、　　さん、あなたが優しく丁寧になったのです。だからそのように感じるのです。お母様はそのあなたに気付かれたのです。素敵ですね。十数年前に、　　さんのお母さんが佛乗寺に参詣されたとき、一緒に折伏をしました。最後にお母様が「日蓮正宗が正しいということはよく分かりました。しかし、それを信仰している息子が今のような状態では素直に入信できません。　　がチャンとしたら、その時私も入信します。御住職、宜しく願います」と仰って鹿児島に帰られました。今回、お母様が御授戒を受けられたのは、　　さんが、「チャンとした」からです。奥様のお力の大きなることを感じます。おめでとうございます。結局は「私たち自身」です。

「仏は衆生を思えども衆生仏を思わず。親は子を思えども子親を思わず」云云。十九日は父の日です。

### 《佛乗寺支部総登山》

六月五日(日)に支部総登山が行われ、廣田講頭・総代を始め大勢の檀信徒が、大御本尊様のもとに足を運び、罪障消滅の修行に励みました。

御開扉後には、宿坊となった遠信坊において、昨年に引き続き唱題行を執り行いました。

生憎の雨模様ではありましたが、皆さま元気で明るく楽しい御登山になりました。

おりからの雨も、「過去世の罪障を洗い流す慈雨」と捉え、雨に洗われた総本山全体を覆う新緑の若葉に、私たち一人ひとりの「蘇る生命」を思い、より大御本尊様の功德を実感することが出来たように思います。

唱題行の後に、大御本尊様の功德を独り占めすることのないように、明日からの折伏を決意して帰途に就きました。